

まとめ

- 国立がんセンター中央病院および東病院でイレッサを投与された非小細胞肺癌261例の臨床経過を解析した。
- 腫瘍縮小効果が評価できた233例中62例 (27%)で著明な腫瘍縮小が認められた。
- 261例中8例 (3.1%)に急性肺障害が認められ、5例 (2.0%)が肺障害により死亡した。
- 胸部単純写真で認められる肺線維症は、急性肺障害発症の危険因子であった。RR16.5, $p < 0.0001$